

市政モニターに関すること 総務市民局広聴課 担当：森部、南谷 TEL：５８２－２５２７	アンケート内容に関すること 都市戦略局都市交通政策課 担当：石田、岡崎、民谷 TEL：５８２－２５１８
--	--

令和７年５月２８日

令和６年度 第９回市政モニターアンケート
「公共交通の利用状況に関する調査」
結果概要

本市では、過度のマイカー利用から、地球環境にやさしい鉄道やバスなどの公共交通や自転車への利用転換を図るとともに、持続的に利用することができる交通体系を実現するため、既存の公共交通機関を有効活用しながら、効果的な交通施策を展開していくこととしています。

そこで、今後の交通施策立案の参考とするため、北九州市の公共交通の利用状況についてのアンケート調査を実施しました。

Ⅰ 調査概要

調査対象者 市政モニター９６人（うち、回答者７９人 回収率８２．３％）
調査実施日 令和７年２月２５日～令和７年３月７日
実施方法 インターネット調査

Ⅱ 調査結果概要

（１）北九州市での公共交通の利用状況

北九州市では、ＪＲ、モノレール、筑豊電鉄、路線バス、タクシーおよび汽船などの公共交通が充実しています。

普段から公共交通を利用している人は６４．６％であり、主に、「鉄道」や「バス」を利用している人が多く見られます。そのうち、８２．４％の人が「買物、公共施設・金融機関、趣味・習い事」、３３．３％の人が「通勤」で利用していると回答しています。

残りの３５．４％の人は、普段から公共交通を利用せずに、自動車、バイクなどを利用しており、そのうち、６４．３％の人が「買物、公共施設・金融機関、趣味・習い事」、６０．７％の人が「通勤」で利用していると回答しています。

このため、通勤手段を公共交通に転換することができれば、公共交通の利用促進が図られると考えられます。

（２）自動車での移動の利便性

北九州市内で自動車を利用した移動について、７９．７％の人が便利であると回答しています。

（３）公共交通での移動の利便性

北九州市内で公共交通を利用した移動について、６０．８％の人が便利であると回答しており、その主な理由については、「最寄りの駅・バス停までが近い」、「利用時間帯の運行本数が多い」などでした。

一方で、１９．０％の人が便利と感じていないと回答しており、その主な理由については、「利用時間帯の運行本数が少ない」、「最寄りの駅・バス停までが遠い」などでした。

このため、公共交通の利便性を向上させる取り組みの一つとして、利用者が多い時間帯の運行本数やバスの運行ルートを、利用者のニーズに合わせて検討することなどが考えられます。

（４）Ma a Sアプリの利用

Ma a Sの普及促進は、公共交通サービスの改善・充実の取り組みの一つとして挙げられますが、Ma a Sアプリを利用したことがある人が１３．９％にとどまっていることから、Ma a Sの普及に向けた周知が必要と考えられます。

また、Ma a Sアプリの利用を促進するための取り組みとして、「複数の公共交通（バス、鉄道、モノレール、タクシーなど）を組み合わせた乗車券」や「公共交通（バス、鉄道、モノレールなど）の１日利用券」の提供などの意見がありました。

（５）公共交通の利用促進に向けた取り組み

公共交通の利用を促進するための取り組みとして、「運賃の割引サービスの実施」、「買い物券や特典クーポンなどが付いた乗車券の提供」、「公共交通を利用する機会の提供（ＰＲイベントや特典付きイベントの開催など）」、「公共交通の利便性の向上（運行本数の増加やダイヤの調整、駅やバス停の待合環境の向上）」などの意見がありました。